

☆ 3年生を送る会

昨日は「3年生を送る会」でした。今年のオチは「Dirty Work」でしたね！
 様々なエピソードを寸劇で披露してくれましたが、3年間の思い出は、確かに「35億」くらいあったかもしれません。

それぞれのエピソードに笑いがちりばめられていて、とても楽しいものに仕上がっていたと思います。短い時間の中で、体調を崩す生徒も多かった中、本当によくがんばりましたね！



1, 2年生の合唱は、槇原敬之の「僕が一番欲しかったもの」でした。素晴らしい歌声で、思いがしっかりと届いていたと思います。歌詞の中に「僕のあげたもので たくさんの人が幸せそうに笑っていて」という部分がありましたが、ステージ上から3年生の幸せそうな笑顔をたくさん見ることができたのではないのでしょうか。



3年間の「思い出写真館」や南中を去られた先生方のビデオメッセージの後、3年生が「楓」を合唱してくれました。3年生の思いもしっかりと伝わりました。

とても感動的な送る会だったと思います。また一つ、素晴らしいバトンが繋がりました。



☆ 南中生の活躍

【群馬県明るい選挙啓発ポスターコンクール】

入選 3年 吉田 芽衣花

【第10回 田辺聖子文学館ジュニア文学賞】

小説部門 中学生の部 佳作 3年 結城 寧々

【第29回 読書感想画中央コンクール群馬県審査】

入選 2年 中嶋悟也



☆卒業式の思い出

私は小学校の教員の経験がありません。高校に勤めた3年間を除くと、教員としては全て中学校で働いてきました。

長い間、中学校に勤めているので、「中学校の思い出は数限りなくあります」と言いたいところですが、年も年なので、記憶は徐々に薄れていきます。しかし、その中でも特に印象深く残っているものは、卒業に関する思い出です。

さて、私自身の中学校時代の「卒業式の思い出」となると、もう40年近く前の話になりますが、大きく印象に残っているのは2つの出来事です。

1つは合唱です。「毎年歌っていたものと違う歌をやろう」と先生方は張り切っていました。そして「ハレルヤ」という曲が合唱曲に決まりました。この曲はドイツ語なので、まず歌詞を覚えるところから始まりました。正直言って、全く意味が分かりませんでした。先生も生徒も必死に取り組んでいたのを覚えています。

もう1つの出来事は、卒業式が終わって教室に戻った時のことです。担任の先生（松永先生という方でした）が、「最後に君たちに歌を贈る」とおっしゃって、黒板に「惜別の歌」と書かれました。

当時の私でも、「とても古い歌だなあ」と感じる曲で、全く聞いたことのない歌でした。

歌い出してからしばらくして先生が突然歌を止め、泣き出しました。その涙を見て、クラスの女子が一斉に泣き出したのを覚えています。私もこらえきれず泣いてしまいました。



他の男子はぐっところえていました。あとで、「お前が泣くから、泣きそうだった」「ずっと我慢してたんだぞ」と口々に言われましたが、私は涙もろかったので我慢できませんでした。

他のことは全く覚えていません。どんな卒業式だったのか、どのように入場し、誰が来賓の言葉を述べ、そこにどんな景色が広がっていたのか…。

ただ、自分たちが歌った「ハレルヤ」と担任の先生の「惜別の歌」だけが強烈に残っています。とにかく、泣けて泣けてしょうがなかったことだけ覚えています。

高校の卒業式はあっけないものでした。名前は呼ばれますが、卒業証書は代表の1名が受け取るのみでした。その上、高校3年生ともなると、だいぶ大人です。中学校の時のような感情は湧き起こりませんでした。

もちろん、今の高校の卒業式は私の頃と違うかもしれません。私個人の感情が他人とかなり違っているかもしれません。こればかりは調べようがないので何とも言えませんが、私の中では、中学校の卒業式当日の思い出が鮮明に残っているのです。

だからこそ、良い卒業式にしましょう。心に残る卒業式にしましょう。3年生だけが勢い込んでもダメです。1、2年生だけががんばってもダメです。

3年生の精いっぱい「はい！」 全員の大きな歌声。式の始まりから終わりまで、おしゃべりやふざけた態度を一切取らない緊張感のある姿。



1年生、2年生、3年生、全員が「できることを精いっぱいやろう！」という気持ちで当日を迎えましょう！

皆さんにとって、30年たっても、40年たっても、いつまでも心の中に残っているような、そんな卒業式になってほしいと思っています。